

本稿は、8月22・23日に行われた自治労連第43回定期大会での代議員発言について、加筆・修正したものです。

## カジノ誘致反対の世論ひろげ横浜市長選勝利 住民投票直接請求運動が力に

神奈川県自治労連

運動方針案に賛成の立場から、8月22日投票で行われました横浜市長選挙について発言し討論に参加します。

山中竹春氏が勝ちました。自治労連本部をはじめ、地方組織、政令都市職部会の仲間みなさんには多大なるご支援をいただいたことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

横浜市従は「横浜をコロナとカジノから守る会」から立候補した市民と野党の共同候補、山中竹春氏を「支持」し、カジノ誘致の是非を決める住民投票直接請求運動を継承した「カジノ反対の市長を誕生させる横浜市民の会(以下、誕生させる会。)」の中心的な役割を担いながら、菅政権と財界に支えられた横浜市政を市民の手に取り戻すとともに、市民と野党の共闘を継続・発展させ、菅政権の悪政を阻止し政治の転換に結びつけるたたかいとして、職場要求実現とカジノ誘致撤回、住民自治の回復など市民的大義のもとに、取り組みを進めてきました。

選挙結果は山中氏が50万6392票(得票率33.59%)、小此木氏が32万5947票(同21.62%)、現職の林氏が19万6926票(同

13.06%)、田中氏が19万4713票(同12.92%)、松沢氏が16万2206票(同10.76%)、福田、太田、坪倉3氏は得票率が1桁台の結果となり、8人もの候補者が乱立し、投票率が49.05%で前回から11ポイント上回る大激戦を制し山中氏が勝利を勝ち取りました。

### 「カジノ誘致撤回」「住民自治を取り戻す」 市民・野党共同のたたかい

選挙にあたって、横浜市従は昨年の定期大会で決定した方針に基づき、「市民本位の市政を実現したいと願うすべての団体・個人と共同した選挙」をめざし、運動をすすめてきました。とりわけ、2019年8月22日の林市長の突然のカジノ誘致の表明、推進の強行に対し集まった193,193筆もの市民の意思を蔑ろにする、住民投票条例案の市会での否決を受けて、住民投票直接請求運動を継承し、「カジノ誘致撤回」「住民自治を取り戻す」との思いを託せる候補と、市民と野党の共同の運動で市長選挙をたたかうことを重視し、「誕生させる会」として大変な努力を積み重ねました。

その結果、元横浜市立大学医学部教授である山中氏が立候補し、政党では立憲民主党が推薦、共産党、社民党、緑の党、新社会党が

支援、横浜港ハーバーリゾート協会や市民団体が支持、労働組合はナショナルセンターを超えて支援を決定し、今までにない幅広い枠組みができました。多様な考えを持つ幅広い市民と野党との共同をすすめることは、さまざまな困難もありましたが、林市政を転換したいとの一致点を大切に、力を合わせてたたかうことが勝利につながる確信となりました。

選挙では、山中氏を含め8人が立候補し、そのうち6人がカジノ誘致に否定的な態度を表明しました。とりわけ、閣僚としてカジノ誘致を推進してきた小此木氏が「誘致取りやめ」「市民の声を聞く市政」まで表明しました。このことは、市従が中心的役割を担いながら市民と野党の共同で進めてきた住民投票直接請求運動によって、カジノ誘致反対の世論を広げ、市長選挙の争点としてきた成果です。また、自民が自主投票を決め、小此木氏を支援、一部市議が林市長を支援する「分裂選挙」とさせたことも運動の成果です。さらには、市民と野党の共同の候補が、菅首相が全力で支援するとした候補に得票率12ポイントもの大差をつけて勝利したことは、菅政権に大きな打撃を与え、秋の総選挙で国民生活優先の政治への転換が展望できる情勢をつくりました。

### 職場・市民要求の実現につながる政策を支え 市民本位の市政実現めざす

山中氏が訴えた「カジノ誘致断固反対、即時撤回」「データと科学的知見に基づくコロナ対策」「中学校給食の全員実施」「中学までの医療費無料化」などの政策は、コロナ感染拡大に対し、科学的知見を軽視し、自助努力と場当たりの対応に終始する菅政権に対する対抗軸であり、市民の声に真摯に向き合った政

策です。また、市従が市民団体とともに実現を求めてきた要求であり、林市政を転換させ市民本位の市政を実現する政策となり得ます。同時に「市政のデジタル化」など懸念をすべき政策があることも事実です。

横浜市従は、山中氏の職場要求・市民要求の実現につながる政策に対しては、これを支え促進する運動を進める一方で、市長は使用者であり、いかなる政治的立場であれ、迎合も屈服もしない立場で、不一致があれば今後の運動を通じて要求実現を求めています。

市民と野党の共同の運動による市長選挙勝利を確信にし、引き続き職場の要求にもとづく団結を基礎に労働条件の維持・改善と市民本位の市政の実現をめざし、市民と野党の共同の運動のさらなる前進に全力で取り組む決意を表明し、発言とします。ありがとうございました。